

真崎浦干拓の思い出

阿漕ヶ浦湖畔にあった昔の村松小学校に通っていた頃、真崎浦はまだ沼地のようなところもあり、子どもたちで水田を作っていました。
(女性 昭和6年生 船場地区)



美しい水田地帯である真崎浦は、昔はコイやフナが生息する湖沼でした。大雨のたびに水があふれ人々を苦しめていたため、真崎浦を沼から水田にする干拓事業が始まりました。江戸時代から始まった干拓は幾度もの中断を経て、昭和13年に完成しました。



▲湖だった真崎浦
(村松村沼地 安政三年八月西野起業地)

約200年前

真崎浦の干拓始まる

久慈川沿いには石神城が、細浦に張り出す岬には真崎城が築られました。



▲石神城の深い堀

約500年前

武士たちが城を築く

石神村・村松村の誕生
(明治22年)

かつて何日も大風が吹き続け、ひとつのムラが砂で埋まったという

ちぢらんぶう
千々乱風伝説



▲伝説のムラが眠る村松海岸

約100年前

砂とのたたかい

村松海岸では、武士たちの財源となる塩づくりのムラが営まれていました。しかし、飛んでくる砂により埋まってしまったのです。J-PARC建設工事の際、「伝説のムラが砂の中から出土した」と大きな話題になりました。

東海村誕生

組合立東海中

大正7年、飛砂の被害に苦しめられていた村松海岸は、海岸砂防林造成の試験地に選ばれました。多くの村民の手で植えられたクロマツ林は、現在も砂から村を守ってくれています。



▲村松海岸砂防林

東海中学校設立時の思い出

中学2年生のときに、石神村と村松村の組合立の東海中学校ができ、自分は第1回卒業生でした。あの場所に作られたのは、村松村と石神村の中間に作ろうということになったからだろう。校舎は、前渡村の飛行場の廃材をもらって建てました。グラウンドは、大人も子どもも皆駆り出され、手作業で作りました。石神村と村松村で一緒に学校を作るといった経験があったからこそ、合併するときも違和感があまりなかったのかもしれない。(男性 昭和9年生 真崎地区)



【村の記憶 大募集】

現在、「広報とうかい」では、合併した時の記憶、旧村松小学校、石神小学校の記憶を募集しています。遠足はどこに行ったか、合併したときの村の様子など、記憶がある方はぜひ情報をお寄せください。情報は、電話またはメールで、下記の担当へご提供ください。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内) ☎287-0851 ✉syougaiakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp